

和田 直樹

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

対象を観察して捉える。というシンプルで、基本に立ち返った描画を心掛けるようにしています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

10分クロッキーなら木炭紙大のクロッキー帳、5分クロッキーならB3大のクロッキー帳で描いています。描きやすいサイズに感じて、ここ一年はこのスタイルです。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

最も使うのは柳の木炭(特に伊研No.200)。

濃淡の調子の幅、伸びの良さ、色味に魅力を感じます。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

無彩色の黒を空間・物の質感・色味にそれぞれ自在に変えていけたらと思います。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？(特に人物の場合)

頭部輪郭から描き始める事が多いです。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

集中を切らさない事、成り行きで途中から描く方向性を変えない事などは注意しています。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

クロッキーでは滅多にありませんが、これ以上描いたらむしろ悪くなると予測が立った時です。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

昔は完全に乖離（かいり）していましたが、今はあまり違いを感じません。素材の違いでアプローチの仕方は異なりますがそれを考える事もまた楽しいです。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

意識的に役立てている訳ではありませんが、速写による判断力のトレーニングはタブローに役立っていると思っています。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

絵画表現をより自由にするためのインナーマッスル・体幹の様な美術の基礎鍛錬。